

2008年6月4日

極地雪氷分科会に関する打ち合わせメモ

日時：2008年5月30日 10:40～11:50

場所：幕張メッセ（千葉県千葉市）

参加者：本山秀明、亀田貴雄、川村賢二

1. 学会時の総会およびオーガナイズセッション(合計2時間)

・総会 (30分)

会計報告、役員改選、事業報告：南極観測将来計画WG報告、国際対応幹事報告など

・オーガナイズドセッション (1.5時間)：

観測隊報告：48次越冬隊（福井および中澤、各15分）30分

日ース共同トラバース（藤田、まとめて一人で報告？）30分

ドームふじ深層コア解析（ドームふじコア研究グループ東久美子）30分

- ・昨年のようなミニシンポジウムは、今年は開催しない。
- ・上記のプログラムを早々に作成し、7月上旬までの古川晶雄氏に送る（担当：亀田）。
- ・時間帯は初日の夕方(水曜日)を希望する。事前に氷河情報センター（幸島、内藤）と打ち合わせをすること（担当：亀田）。

2. 極地雪氷分科会のホームページ (HP)

- ・これまでの総会のプログラムのアップロードなどをして、内容の充実を図る。
- ・現在は北見工業大学内のサーバーにHPがあるが、ftp経由で北見工業大学外から変更可能かどうか？
→担当の舘山氏によると、これは現時点では無理とのこと（現在使用しているサーバーはセキュリティのため、北見工業大学の外からのアクセスを制限しているため。これを回避するためには、1)アクセスを希望する方のIPアドレスを北見工業大学に登録すればよい。2)雪氷学会本部のHPサーバーに極地雪氷分科会のHPを移設すれば良い。上記の二つの方法のなかで、まずは上記の2)の方法の検討を進める。

3. 雪氷での極地雪氷特集号

雪氷編集委員長遠藤氏より依頼があった件について検討した。現在、ドームふじコアの解析結果は、**Climate of the Past (CP)** で特集号として出版することを検討しているが、このCPでの原稿の集まり具合を見てから対応を決める。

雪氷特集号に掲載する論文としては、以下の3種類があることを確認した。

- ・各研究グループがそれぞれ成果の概説的な内容の報告論文を出す(原稿種類：報告)。
- ・CPの各論文の著者がCPでの報告内容やそれ以前の関連する内容などをまとめて報告する(原稿種類：報告)。
- ・著者が掲載を希望する原稿(原稿種類：原著論文、研究ノート報告、報告)

4. 南極観測将来計画検討WG

6月26日(木)に極地研にて「第2回南極観測シンポジウム」が開催される。雪氷分野としても10年先を見越した観測計画を出す必要がある。

以下、関連する話題

1. ドームふじコア関連での国際ワークショップの開催（本山）

2009 年度で「極地研－低温研機関連携事業」が終了することに伴い、国際ワークショップの開催が 2009 年度に計画されているとのこと。

2. ドームふじ観測計画で得た観測データの集積（亀田）

論文に掲載した既出版図のオリジナルデータ（デジタルデータ）を web 上の 1ヶ所に集積し、ドームふじ観測計画関係者が自由にダウンロードできる web 上の仕組みを検討した。この目的は、ドームふじ観測計画内での共同研究を進めやすくする狙いととも、データ保管のバックアップにある。仕様を検討して、業者からさらに詳細な見積もりを取ることもなった。仕様としては、1)上記の仕組みをソフト的に作成する経費、2)サーバー類（通常の PC、HD など）、3)1 年程度の更新経費、を想定することとした。経費については「極地研－北大低温研機関連携事業」経費が使える可能性がある。